

経営目標	取組内容	現 状 (数値は令和4年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	評価				次年度の方向性等
					前期		後期		
						%		%	
1 学力向上	① 「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくりの充実	<p>・本校の研究主題、カリマネの柱である表現力の向上をさらに進めたい。教職員の発問、生徒の表現力の自己評価はともに肯定的評価は89%であるが、1回答は50%程度のため、1回答を増やすことを意識する中で、肯定的評価を増やす。</p> <p>・1人1台端末の活用については、昨年度までの研究を土台に実践が進んでいる。今年度はより効果的な利用に着目する。</p>	<p>・教職員は、生徒の様々な考えを引き出したリ、思考を深めたりするような発問をしている。 【教職員・努力】</p>	A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満	B	94.1	C	88.2	<p>・本校のカリキュラム・マネジメントの柱である「表現力」に重点を置いて、令和5年度の実践を踏まえ「思考を深め、伝え合う力」を高める授業づくりをめざす。</p> <p>・1人1台端末が整備された3年間の研究実践より、教員・生徒ともに授業等で、当たり前のように端末を使用する様子が見られる。しかし、授業において使用のパターン化、行き詰まり感も感じるため、生徒に応じた「個別最適な学び」の導入について学校研究を進めて行く。そのことが、生徒の学力向上につながると考えている。</p> <p>・令和5年度は教科部会を軸として学校研究を進めた。教職員の評価も良好であった。 来年度も継続して研究部会が教科部会での論点(学力調査の分析、学力向上プランの作成等)を決定し、教科部会の内容を全体に還元する研修会を開催し「学力向上プラン」「学力向上ロードマップ」に基づく取組等、職員の方向性を揃えていく。</p>
			<p>・生徒は、まとめや振り返りで、自分の考えを表現することができる。 【生徒・成果】</p>	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	B	86.7	B	87.8	
			<p>・教職員は、1人1台端末等のICT機器を、授業の場面に応じて効果的に使用している。 【教職員・努力】</p>	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	B	88.2	A	93.8	
	② 学力向上プラン・学力向上ロードマップに基づく取組の推進	<p>・「教科部会の内容」については今年度の新たな評価項目である。研究部と連動した教科部会を持ち、学力調査の分析や、発問の工夫等を教科で取り組んで行く。</p>	<p>・教職員は、学力調査の結果を分析し、「学力向上プラン」に基づく指導をしている。 【教職員・成果】</p>	A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満	D	81.3	B	93.8	
<p>・教職員は、「教科部会の内容が充実している」と感じている。 【教職員・満足】</p>		A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満	A	100	B	94.1			
学校関係者による意見等	<p>・少人数授業の効果や、成果について聞かせてほしい(回答)発表等の自己表現ができる機会の増加、気軽に質問できる雰囲気醸成により、生徒同士が学び合う場面を一斉授業より確保することができている。また、学力調査からも有効性が認められる結果が出ている。</p> <p>・「教科部会の充実」において教職員の満足度評価が下がっているが、その理由を聞かせてほしい(回答)全般的に言えることだが、教職員数が少なく、1人あたりの評価が6%程度に値する。来年度は、達成度判断基準を再考する必要がある。「教科部会の充実」については、1人で担当している教科もあり、今年度は3中学校合同研修会を開催したり、他校の公開研究会に参加することを促した。</p>								

経営目標	取組内容	現 状 (数値は令和4年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	評価				次年度の方向性等
					前期		後期		
						%		%	
2 豊かな心の育成	① 自己肯定感の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員からのタイムリーな生徒の自己肯定感・有用感を認める指導をさらに進めていく。(肯定的評価95%、1回答74%)</li> <li>・「自分には良いところがある」と感じている生徒は81%であるが、3年生は64%と低く、学校行事等で「やり切る」体験を増やしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は生徒を褒めたり伸ばしたりしながら、長所を認める(伝える)指導をしている。【教職員・成果】</li> </ul>	A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満	B	94.1	B	94.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度2学期より生徒と向き合う時間確保のため、授業開始を10分遅らせる日課変更と生徒との人間関係構築のために面談を月1度、時間割の中に位置付けた。職員にとっては生徒理解の機会となった。生徒にとっては、学校の中に相談できる大人がいると思える機会となった。来年度も継続していく。</li> <li>・生徒の自己肯定感、有用感を高めるために、行事や授業等で生徒の頑張りや成長を観察し、認める指導を継続していく。</li> <li>・前期学校評価の結果と併せて「学校におけるいじめの未然防止や早期発見の取組」について知らせる機会を持ったが、評価は横ばいであった。あらゆる機会、媒体を通じて、本校の取組を伝えていく。</li> <li>・道徳の授業において、生徒は他者の考えを聞くことで、見方・考え方の広まりとともに自身の成長も感じている。教員もさらに「思考を深め、伝え合う力」を高める授業づくりを、道徳担当を中心に組織的に進めていく。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は「自分には良いところがある」と感じている。【生徒・成果】</li> </ul>	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	B	76.4	B	78.8	
	② 積極的・組織的な「支える生徒指導」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は生徒理解に努め、一人一人に応じたきめ細かな指導に努めている。【教職員・成果】</li> </ul>	A: 100% B: 95%以上 C: 90%以上 D: 90%未満	D	88.2	C	94.4		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校へ行くことが楽しい」と感じている生徒は89%。</li> <li>・生徒は「学校へ行くことが楽しい」と感じている。【生徒・成果】</li> </ul>	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A	91.3	B	88.4		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校におけるいじめ未然防止等の取組を知っている」保護者は87%。さらに学校の教育活動について知らせる工夫を行う。</li> <li>・保護者は、「学校におけるいじめの未然防止や早期発見のための取組」を知っている。【保護者・満足】</li> </ul>	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	B	81.1	B	82.8		
	③ 道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業により「自己の成長を感じている」生徒は91%。今年度は、授業における表現の場をさらに創出し、生徒の自己肯定感の伸長につなげたい。</li> <li>・教職員は道徳の授業において「考え議論する道徳」の実現に取り組んでいる。【教職員・努力】</li> <li>・生徒は、道徳の授業において他人の考えを聞きいろいろな見方・考え方を知ることができている。【生徒・満足】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は道徳の授業において「考え議論する道徳」の実現に取り組んでいる。【教職員・努力】</li> </ul>	A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満	D	76.9	D	80.0	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は、道徳の授業において他人の考えを聞きいろいろな見方・考え方を知ることができている。【生徒・満足】</li> </ul>	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A	97.1	A	96.5	
	学校関係者による意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と教員1対1の面談は良いことだと思う。学校側が生徒一人一人に向き合っていることは、アンケート結果の数値にも表れている。子どもたちは思春期という不安定な中で、自分にも「よいところがある」と認めてもらえることで自信にもつながる。ぜひ、今後も面談を続けてほしい。</li> <li>・保護者となかなか会話のやり取りがない場合も考えられるので、先生とのやり取りがあるのは良い。口に出せないことを書いて伝える手段もあるため、「絆(生活ノート)」の取組も継続してほしい。</li> </ul>							

経営目標	取組内容	現 状 (数値は令和4年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	評価				次年度の方向性等
					前期		後期		
						%		%	
3 健康教育の 充実と体力 向上	① 食育の推進	・毎日朝食を食べている生徒は98%(R4)との回答を得ているが、継続して評価項目とする。	・学校は給食指導等の機会を捉え、食育指導を行っている。 【教職員・努力】	A:100% B:95%以上 C:90%以上 D:90%未満	D	76.5	D	88.9	・栄養教諭を講師とした、食育についての学習会を全学年で実施した。さらに、PTAと連携し給食試食会と保護者対象の食育講座も実施した。今後も継続していく。  ・給食を題材に将来の食生活や地域食材等を扱うなど、これまでの残菜ゼロの取組に変わる取組を実施する。
	② 体力・運動能力の向上	・全8種目中、男子はすべての学年で5種目以上が、県平均を上回ったが、女子は平均を上回った種目が4種目以下であった。	・体力テストにおける、県平均値以上の種目数(全8種目) 【生徒・成果】	A:7種目以上 B:6種目 C:5種目 D:4種目未満	男子 : B 女子 : C  (前期のみ)				・体育の授業で継続的に補強運動をすることや、部活動を通して体力・運動能力の向上を図る。
	③ 適切なメディアの使い方の指導と啓発活動	・メール・ネット等の使用時間は長くなる傾向である。(1時間以上75.1%、3時間以上18.2%)かほく市ネットルールの周知、専門家による講演等を通じて、スマホ・ケータイの使用時間を含めた使い方を考えさせる機会を設ける。	・学校はネット社会の光と影、マナーとモラルについて指導する機会を設けている。 【教職員・成果】	A:4回以上 B:3回 C:2回 D:2回未満  (通年で)	A	4回	A	7回	・令和5年度同様、通信事業者主催のネットモラル講演会を実施したり、全校集会で生徒会が「かほく市ネットルール」の読み合わせをしたり、学校便りで保護者へお知らせしたり、あらゆる機会を通じてネットモラル・マナーについて指導・啓発する機会を設けていく。
			・生徒は「かほく市ネットルール」を心がけている。 【生徒・努力】	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	C	74.5	C	73.7	・メール、ネットの使用時間が調査をするたびに増加していく傾向がある。そのため、PTAや小学校と連携した取組を模索していく。
学校関係者による意見等	<p>・平日に2時間を超えるネット等の利用がダメだと頭ごなしに言っても響かないと思う。大人になった時、勉強しておけば良かったと気づくことは多い。経験しないと分からない部分もあり、その大切さをどう伝えていくか難しいところである。子どもたちが、経験談を聞く機会があると良い。</p> <p>・ネット依存症のような生徒はいるのか、聞かせてほしい。 (回答)アンケートの結果より、平日に4時間以上ネット等に触れている生徒が14.0%いる。睡眠時間が削られ、生活リズムが崩れることを危惧している。学校としては起床・就寝・家庭学習開始の時刻を固定する「3点固定」を推奨している。</p>								

経営目標	取組内容	現 状 (数値は令和4年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	評価				次年度の方向性等
					前期		後期		
						%		%	
4 円滑な組織運営と学校の活性化	① 組織的な学校運営と校務分掌の確立	・組織としての学校運営について、教職員の意識は高い。ただ、学校評価アンケートの結果を分析した上での改善についての1回答は52%であり、校務分掌部会等を活用し、組織として取組の検証、改善を図る機会を設ける。	・教職員は自己の役割が明確で職務を円滑に遂行している。 【教職員・成果】	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A	94.1	B	89.5	・校務分掌部会を活用し、整理・統合の視点から校務を見直すなど、取組の共通理解や自己の役割を明確にしていく。
	② 学校評価を生かした学校運営		・学校評価アンケートの結果の分析及び学校運営協議会の意見を基に、教育活動の改善に努めている。 【教職員・成果】	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	B	88.2	B	89.5	・学校アンケート実施後は、教科部会、校務分掌部会において分析や改善策も検討している。アンケート実施後の改善策についても、定期的に検証する仕組みを構築していく。
	③ 信頼される学校づくりのための連携強化	・「学校の方針や子どもの姿が伝わってくる」の設問に保護者の1回答は28%と低い。ホームページの充実等を図り、保護者・地域に発信していく必要がある。	・小中連携において、教職員間、児童生徒間の交流を通して、相互理解を深めている。 【教職員・成果】	A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満	D	82.4	B	88.9	・教員を対象に、学力向上や特別支援教育について協議する場を設けたり、小学校6年生を対象に、授業体験、部活動見学を実施したりした。行事における児童生徒の交流や教職員間の交流を計画し、校区内のスムーズな連結を進めていきたい。
			・学校は相談や問い合わせに適切に対応してくれる。 【保護者・成果】	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	B	89.7	A	92.7	・生徒の学校生活のようす、学校経営、学校教育についての方針が伝わるように、学校便り・ホームページ等の充実を図っていくとともに、保護者・地域からの相談や問合せには、丁寧で誠実な対応を心がけていく。
			・保護者は学校便り・ホームページ等を通して、学校の方針や生徒の様子等を知ることができる。 【保護者・満足】	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A	95.7	A	93.5	
④ コミュニティスクールを生かした魅力ある学校づくりの推進	・コロナ禍の制限が緩和されたことに伴い、教育効果の高い外部人材の活用も進めていきたい。	・学校は、地域の外部人材を積極的に活用している 【教職員・成果】	A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満	B	94.1	B	94.4	・令和5年度は、50名を超える外部の方に教育活動に参画していただいた。今後もコミュニティスクールの強みを生かし、地域・外部の方の力を借り、「社会に開かれた教育課程」の実現に取り組んでいく。	
学校関係者による意見等	<p>・「学校は相談や問い合わせに適切に対応してくれる」の評価において、保護者からA評価を得たことは素晴らしい。教員はどうしても自分に厳しく評価する傾向が見られるが、保護者からの評価が高いことを自信としてほしい。</p> <p>・「小中連携の取組」がD評価からB評価となったが、新しい取組を実施したのか。(回答)5月に感染症対策が緩和されたことで、これまで中止していた取組を、実施することができた。具体的には夏休みの小学生授業体験や部活動見学が挙げられる。他にも、小・中学校の教員同士で「どのような生徒を育てるのか」と各校の取組について意見交換する場も設定した。</p> <p>・学校のホームページの更新も多く、いろいろな情報をタイムリーに閲覧できることに感謝している。</p>								

経営目標	取組内容	現 状 (数値は令和4年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	評価				次年度の方向性等
					前期		後期		
						%		%	
5 教職員の働き方改革の徹底	① 教職員の時間外勤務の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外勤務時間は、減少傾向にあるが、依然として80時間を超える教員もある。</li> <li>・水曜日の効果的な活用法を図り、生徒の放課後の活動時間は保障しつつ、時間外勤務の削減につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は、効率的・効果的な取組がなされるような意識を持った働き方(働き方改革)を行っている。</li> <li>【教職員・成果】</li> </ul>	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	B	88.2	C	78.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と向き合う時間の確保、生徒の学力向上、教員の授業準備時間確保等の目的を持った業務の削減、整理・統合を行い、時間外勤務の減少につなげていく。</li> <li>・前年度と比較し、1ヶ月あたりの職員平均の勤務時間は減少しているが、時間外勤務が80時間を超える職員もいる。決められた時間内で働く意識をさらに高めるようにしていく。</li> </ul>
学校関係者による意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の時間外勤務については、生徒のために一生懸命やろうと思うばかりに時間外勤務が増えてしまうことも理解できるし、大変だと思う。</li> <li>・配置人数も不足していると思う。保護者の要望で「朝学習を実施してほしい」という意見もあるが、そうすると先生の朝の時間も超過してしまうことになり申し出できない。</li> <li>・休日の部活動は令和8年度で地域に移行するが、この過渡期に在籍する生徒は、現在の部活動しか選択できない。選択肢も限られている。中学校3年間は、あっという間に過ぎ、コロナ禍もあった生徒たちのために、目に見える形で本腰で取り組んでほしい。</li> </ul>								